

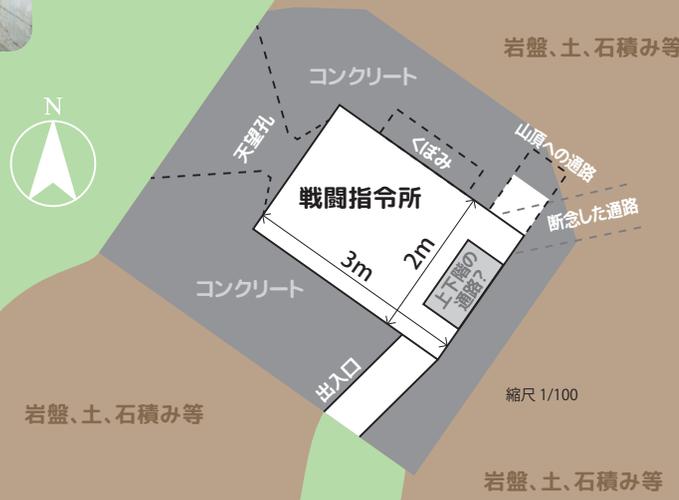
太平洋戦争、奄美守備の奇策!?

山頂にある 戦闘指令所

昭和16年から続く太平洋戦争において、次第に連合国軍による反撃が激しくなると、日本政府では南方の島々に飛行場を建設し、島伝いに防衛強化を行う必要性が指摘された。このような状況のなか、昭和18年(1943年)10月、浅間陸軍飛行場の用地買収が行われ、突貫工事により翌19年6月に完成。並行して昭和19年4月、奄美守備隊(独立混成第21連隊)が編成され、奄美大島や加計呂麻島に配備されていた主力部隊が徳之島へ前進配備。同年7月12日、さらに奄美守備隊を増強すべく、独立混成第22連隊と旅団司令部などを加えた独立混成第64旅団が編成され、8月3日には高田利貞陸軍少将が旅団長に着任します。高田少将は、旅団の上位組織で琉球列島全域を守備する第32軍の命令に基づいて、奄美群島唯一の陸軍飛行場がある徳之島に配下の主力部隊を配備することとし、現地の地形を視察した上で、陣地線や戦闘指令所を始め施設の配置を決定しました。これにより、奄美守備隊(独立混成64旅団)は、大和城山を中心として、総勢7,600名の将兵らにより奄美群島における決戦を視野に入れ、防衛に当たることになりました。



大和城山戦闘指令所 概略図(一部想像含む)



トーチカとは、頑丈に造られた防衛陣地のことだけど、一般的なトーチカのように、ここにも銃火器などがあったかどうか、不明なんだ



高田少将が終戦後の昭和31年に記した著書、運命の島々 奄美と沖縄には、「直撃の十トン爆弾に堪えるだけの厚さを頂上に残して円筒をたてたような洞窟を造り、四方に天望孔をつけた。」とあります。実際に現在の大和城山の山頂付近を踏査したところ、縦穴を掘って造られたコンクリート製のトーチカが残っており、それを盛り土や石垣によって埋設されている様子が分かります。現在のトーチカ内部は半ば破壊されており、戦闘指令所の全てが残っているとは限りませんが、確認できるのは地下2階の建造物となっています。その下階の東側には、兵舎など各種施設のあった山腹に向け、通路の掘削が行われた跡がありますが、岩盤が硬すぎたため途中で行き止まりとなっています。終戦後まもなく、奄美視察に来た米軍のガーフィールド大佐は、徳之島の陣地は空中偵察でもよくわからなかったと述べており、高田少将が意図したように「戦場を広く見渡すことができ、かつ敵から見えにくい陣地」を築くことに成功していたようです。

もっと情報が見られる電子版はこちら

